

山口村長及び中津川市長ほか恵北6町村等の知事への議案提出の要望 要旨

平成16年12月20日(月)

知事室

8時30分 ~ 9時20分

【大山中津川市長】

恵北の6町村長も揃って最終の段階においての知事の議案提案をお願いにまいりました。それぞれの個性を尊重するまちづくりをしていくため、地域総合事務所や地域審議会、地域振興特別予算によって、地域の独自性を大事にしていきたいと考えております。

【加藤山口村長】

今でも知事さんが提案してくれるものと信じております。村民の暮らしを守るためにもぜひ議案の提案をお願いします。

【田中知事】

引き続き長野県民として「信濃の国」を共に歌い続けたいという方々、長野県民であり続けたいという方々を追い出すがごとき、見捨てることが知事として難しいことだと思っています。

【加藤山口村長】

今まで長野県が山口村に尽くしてくれたことは村民一同心から感謝しています。知事さんには寂しい思いをさせますけれども、ぜひとも議案を提案していただかないと46年前の合併時のように大混乱が起き、私には抑えることができないと思っています。

【田中知事】

引き続き「信濃の国」を長野県民として歌い続けたいという方々の想いはどのようにお考えですか。

【加藤山口村長】

仮に岐阜県民になっても信州人としての誇りと信州木曾との絆を持って新しい地域づくりをしていきたいと考えています。

【田中知事】

最後まで長野県民であり続けたいという方を守るのが私の責務だと思っています。

【加藤山口村長】

知事さんから提案がない事は本当に村にとって悲しい出来事になります。

【田中知事】

合併特例債を目的で合併をお考えになられたわけではないと思いますが、かなり県民の議論が深まりつつある中で、議案を提出するという考えまではまだ至っていないということです。

【加藤山口村長】

合併重点支援地域にさせていただいた時に、県民議論というようなお考えをなぜその時点でおっしゃっていただけなかったのが今は非常に残念です。それから、9月に突如提案しないとしてきた知事さんのお気持ちをお聞かせください。

【田中知事】

私の思いの至らなさを改めるに如くはなしという失礼はお詫びを申し上げてきたところです。1点お聞きしたいのは、加藤村長は「平成の大合併」という国の大きな流れが起きたからお考えになったのでしょうか。あるいは中津川市に行くということは合併特例債という様々な金銭的な優遇措置というものがないと中津川市に行くということは難しいということでしょうか。あるいはそれとはかかわらず、中津川市民でありたい、岐阜県民でありたいという熱い皆様の純粋な気持ちで今日に至っているのでしょうか。大変失礼なご質問だと思いますが、今のような点はいかがでしょうか。

【加藤山口村長】

もちろん私は、国が推し進めている「平成の大合併」こういう問題がなければ私は何も今のままでいいんです。

2千人の人口ですけれども、2千人くらい人口の中で住民のみなさんとの顔を見て、村民ともどもお互いに助け合って、やっていけるような地域づくりがちょうどいいくらいだと。2千人くらいの規模の村で。だから国からの推し進めの合併が無ければ、私はそのままですよ。そういう考え方は持っていました。

ただ、山口村は残念ながら地方交付税という国から見て頂けるお金で、大半以上は頼りにしていました。そこが削減されていくところで、財政的にもこれは大変な

ことになったという中で、いろいろと協議検討してきた中で、住民との情報提供、議論の中でそういう方向に向かってきたということです。

だから「平成の大合併」という国の問題が無ければ、こんな風には私はなっていません。長野県の一員として、知事さんのいうとおり有り続けたいと思っておりました。

【田中知事】

いやいや、大変ありがたいお言葉をいただきまして、でしたら山口村だけが交付税を削減されるわけではなくて、県内には合併を選ぶ場合でも対等合併、あるいは自律的に村を守ろうという方々がいらっしゃって、私どもは職員の派遣や駐在のみならず、県の財政が厳しくても清水の舞台から飛び降りるような覚悟で支援していこうと思っていますから、いっしょに歩ませていただけたらこんなにうれしいことは無いと思います。

【市脇山口村議長】

中津川市と一緒にになりたいという村民に対しては、何かお気持ちはありませんか。

【田中知事】

長野県民であり続けたいという方を守ることは、県知事としての責務でありますから、少なくとも仕打ちは忍びなくできないということです。

【加藤山口村長】

私がさっき言ったのは、「平成の大合併」が無ければ今のようにあり続けたいと言っただけです。

【田中知事】

「平成の大合併」があるから岐阜県にお移りになりたいというお話しは、私としてはとても残念なことです。

【加藤山口村長】

確か平成13年9月のおでかけ知事室で、長野県の合併推進要綱によれば、「県の垣根を越えて向こうへ行く可能性があるがどうですか」と質問しましたら、知事さんは「それは村や住民が決めること」だとおっしゃいました。それから知事さんのおっしゃるとおりに取り組み、民意を取って決めてきました。

【田中知事】

混乱というものが起きないように、万全の取り組みをさせていただくことを申し上げているわけです。また、逆に共に歩んでいただけるのであれば、全力で山口村の方々が長野県民でよかったと認めていただくために努力をさせていただくことは当然であると申し上げます。「平成の大合併」という大きなうねりがあっても県民であり続けたいという方々がいらっしゃるならば、最後の一人まで守ることが知事の責務だと思います。

いずれにいたしましても、議案を提出するという考えには未だ至っていません。